

【環境】8) サンルダムは河床材の需給バランスを崩し、下流域の河床材が不足し、河床低下を引き起こす懸念がある。また、サンルダムにより砂の供給がなくなるなど、漁場に影響が出るおそれがある。

サンルダムと集水域の地質が類似している岩尾内ダムの下流について、周辺からの土砂供給が比較的少ないと考えられる剣淵川合流点までの区間における、河床材料、最深河床高の変化について整理しました。この区間では昭和の時代に砂利採取が行われていたほか、河道掘削や護岸などの河川工事が行われており、河床高の変化に影響を与えていることから、砂利採取が行われておらず、このような影響のない平成3・4年と平成13・16年の河道を比較しました。その結果、図-2に示すように、概ね安定傾向を示しています。河床材料については、図-1に示すとおり、岩尾内ダムが完成する前の昭和44年と平成8年を比較した結果、粗粒化している傾向は見られません。このことから、サンルダム下流においては、河床低下や河床材料の粗粒化などの変化は小さいと考えられます。

サンルダムの流域は、天塩川流域の中でも森林や地質の状態が良いため、流出する土砂の量は少ないと考えています。

このようなことから、サンルダム建設による河口漁場への土砂供給の影響は少ないものと考えていますが、ダム建設前後にかけて下流汽水域調査を継続し、シジミ生息環境についてモニタリングを行うなど、適切に対処します。

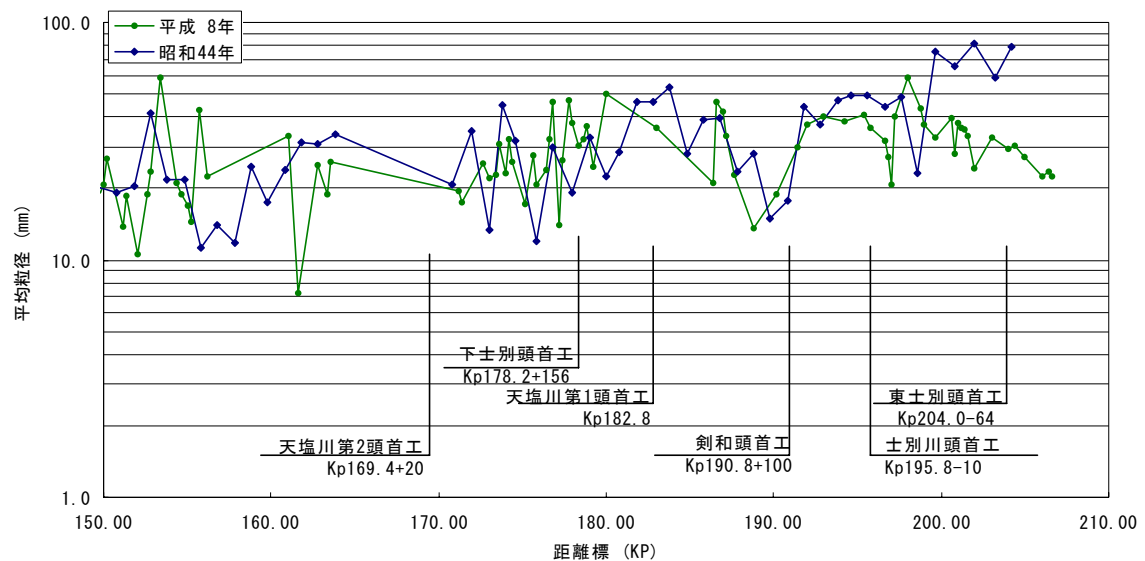


図-1 河床材料平均粒径の経時変化

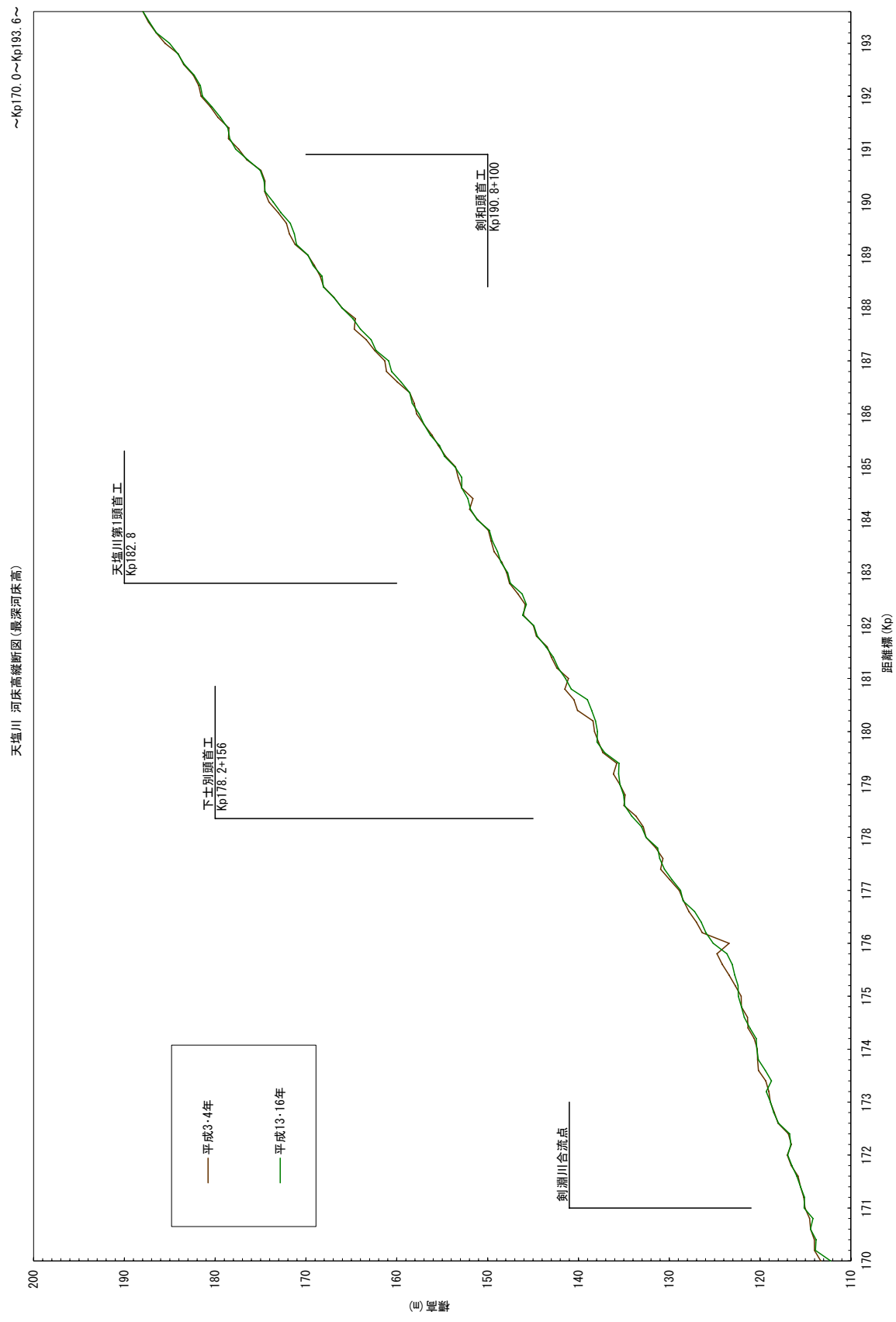


図-2 最深河床高の経時変化